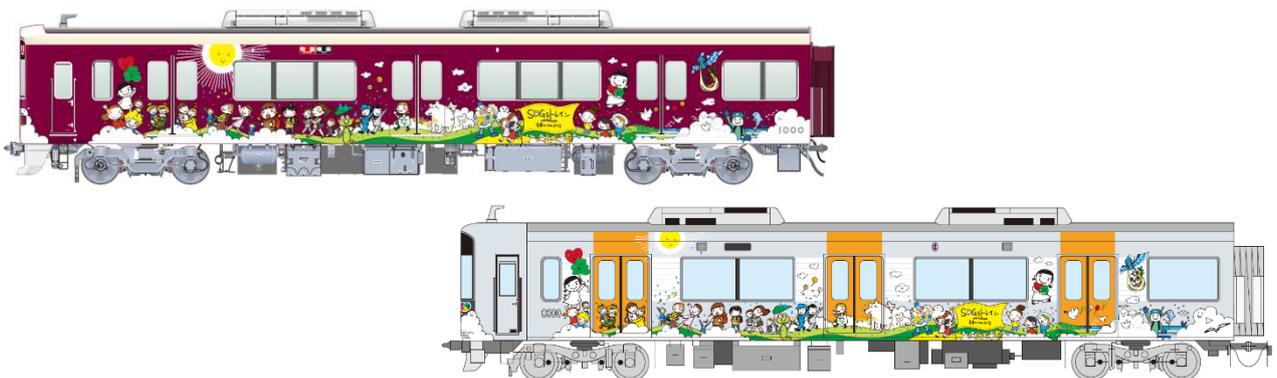


阪急阪神ホールディングス株式会社
 阪急電鉄株式会社
 阪神電気鉄道株式会社

～阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト10周年記念～

国や自治体・企業・市民団体と連携してSDGsの啓発メッセージを発信する 「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」を運行します

阪急阪神ホールディングスグループが推し進める「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト（以下、ゆめ・まちプロジェクト）」が本年で10周年を迎えるにあたり、阪急電鉄と阪神電気鉄道において、SDGs（※）の啓発メッセージを発信する「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」を2019年5月27日から2020年5月末まで運行します。なお、両電鉄共通のデザインによるラッピング列車の運行は初めてとなります。



ラッピング列車のイメージ（上：阪急電鉄 下：阪神電車）

2009年から取り組んでいる社会貢献活動「ゆめ・まちプロジェクト」では、まちの環境を良くする「地域環境づくり（環境づくり）」と、まちの将来を担う「次世代の育成（人づくり）」を重点領域としており、これらはSDGsの達成に向けた取組のひとつであります。

そこで、「ゆめ・まちプロジェクト」が本年で10周年を迎えるにあたり、「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」を運行し、国や沿線自治体のほか、SDGsの取組に先進的な企業や市民団体等と連携して、SDGsの啓発メッセージを発信することにしました。この列車の運行が、より良い地域・社会を考えていくきっかけになればと考えています。



（※）：SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟国が2030年までに17分野で社会課題の解決を達成することを目標に掲げています。

「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」の概要は次ページ以降のとおりです。

阪急電鉄・阪神電車の「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」について

1. 名称

「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」

2. 運行車両

「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」では、省エネ車両を使用します。

＜阪急電鉄＞ 神戸線・宝塚線1000系、京都線1300系車両 各1編成（8両編成）

※1000系・1300系車両は、高効率のVVVFインバータ制御装置、モーターのほか、前照灯を含むすべての照明機器にLED照明を採用。従来型（5000系、6000系などの電力回生ブレーキ非搭載車）よりも約50%、前形式（9000系）と比べても約20%の消費電力削減を実現するとともに、低騒音の全閉式モーターや駆動装置、側窓にUVカット複層ガラスを採用することにより、車内外の騒音を低減させています。

＜阪神電車＞ 阪神1000系車両 1編成（6両編成）

※1000系車両は、高効率のVVVFインバータ制御装置、ブレーキ装置には停止直前まで電力回生ブレーキが作用する純電気ブレーキを採用。照明機器、行先・種別表示器、車内案内表示器をすべてLED化するとともに、車体をステンレス製として軽量化を図り、また外板を無塗装とすることで環境に配慮しています。

3. 運行期間（予定）

2019年5月27日（月）～2020年5月末

4. 運行区間

＜阪急電鉄＞

神戸本線（梅田～神戸三宮および今津線経由宝塚）、神戸高速線（神戸三宮～新開地）、宝塚本線（梅田～宝塚）、箕面線（石橋～箕面）、能勢電鉄線（川西能勢口～日生中央）、京都本線（河原町～梅田）、千里線（北千里～天神橋筋六丁目）、Osaka Metro 堺筋線（天神橋筋六丁目～天下茶屋）で運行

＜阪神電車＞

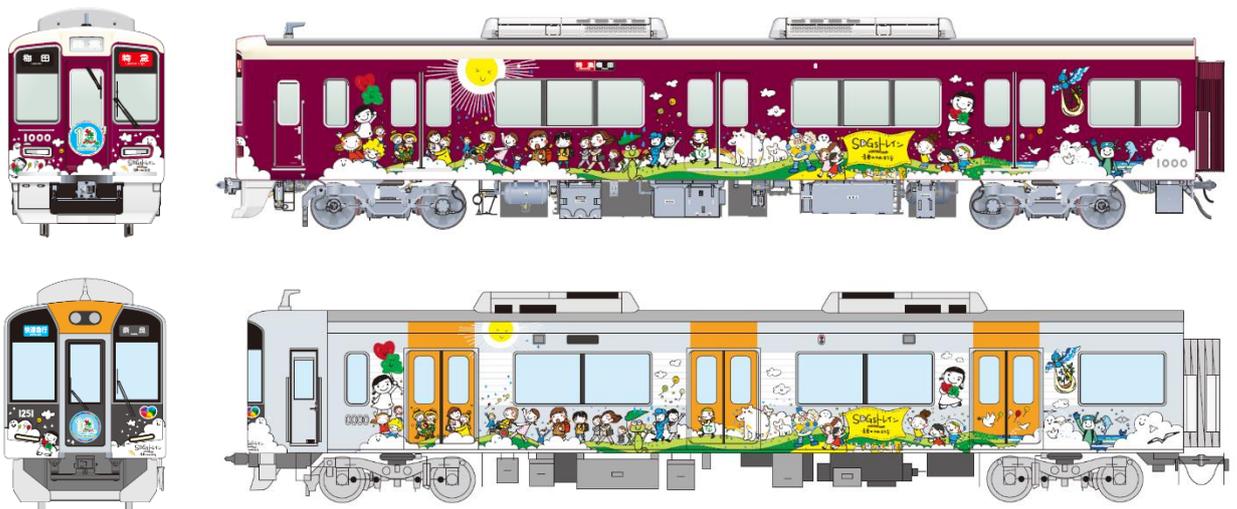
本線、阪神なんば線、神戸高速線を中心に、相互直通運転している山陽電鉄線（西代～山陽姫路）や近鉄線（大阪難波～近鉄奈良）でも運行

5. 車両のデザイン・特徴

●先頭・最後尾車両（上：阪急電鉄 下：阪神電車）

SDGsの目標をイメージするさまざまな人や生き物たちが、より良い地域・社会を願いながら、未来へ向かってパレードをしていく様子を、「ゆめ・まちプロジェクト」のシンボルマークを描くウマカケバクミコ氏^(※)のイラストでデザインしました。SDGsの17の目標を親しみやすく表現しています。このほか、「ゆめ・まちプロジェクト」の10周年を記念するヘッドマークを掲出します。

(※)：大阪府出身のイラストレーター。キャラクター・広告・出版・Webなどのイラストを幅広く制作。ゆめ・まちプロジェクトの立ち上げ時から、シンボルマークをはじめイラスト全般を担当いただいています。



●中間車両

側面の各ドアの横に、SDG s の全体ロゴ並びに1～17の目標のステッカー（計18種）と「ゆめ・まちプロジェクト」の10周年を記念するステッカーを掲出します。



●車両内広告

すべての広告スペースを使って、SDG s が掲げる各目標の解説や、SDG s に関連した当社グループおよび国・沿線自治体・協賛企業・市民団体等の取組に関するポスターを掲出します。

6. 主催者等

主 催：阪急阪神ホールディングス株式会社

共 催：阪急電鉄株式会社、阪神電気鉄道株式会社

企画監修：一般社団法人SDG s 市民社会ネットワーク^(※)

^(※)：SDG s の実現に取り組むNGO・NPOなど約110団体が集まり、さまざまな政策提言や情報発信を行っているネットワーク組織です。同代表の黒田かをり氏は、日本政府のSDG s 推進本部の円卓会議に市民側有識者として参加しています。

協 賛：花王株式会社、サントリーホールディングス株式会社、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、凸版印刷株式会社、パナソニック株式会社、ヤンマー株式会社（50音順）

後 援：外務省、環境省、国連広報センター

協 力：関西SDG s プラットフォーム、JICA関西、社会福祉法人大阪ボランティア協会、認定NPO法人環境市民、公益社団法人日本フィランソロピー協会

7. お客様からのお問合せ先

阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト事務局

（阪急阪神ホールディングス株式会社 人事総務室 総務部 社会貢献担当）

TEL:06-6373-5086（月～金、9:00～12:00、13:00～18:00）

以 上

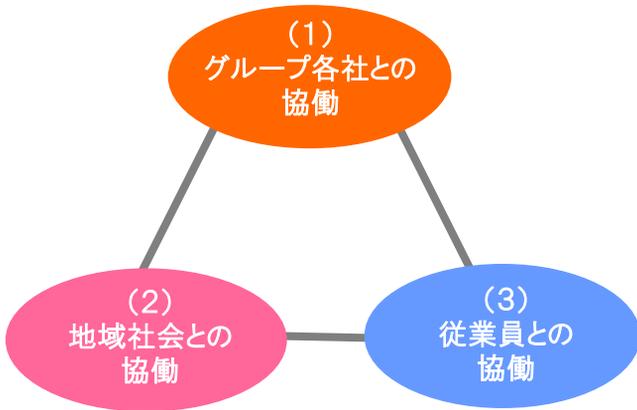
【添 付 資 料】ゆめ・まちプロジェクトやSDG s の概要

当社グループにおけるSDG s に関する取組活動例

<重点領域>



「未来にわたり住みたいまち」をつくりたい！
 そんな想いに共感する、
 まちに関わるさまざまな人々と協働しながら、
 阪急阪神ホールディングスグループを挙げて
 社会貢献活動を推進しています。



環境づくり

地域コミュニティが、安全・安心かつ文化的で、環境に配慮しながら発展する、持続可能なまちづくりに取り組みます。

人づくり

未来の地域社会を担う人材であるこども達が、夢を持って健やかに成長する機会を創出します。

1

グループ各社の社会貢献活動の「認定・促進制度」
 例) ◆ゆめ・まちチャレンジ隊
 ◆ゆめ・まち親子チャリティコンサート
 このほか、年間約100件の活動を行っています。

2

①市民団体を資金面から支援する
 「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」
 ②市民団体の活動の発展を支援する
 「阪急阪神 ゆめ・まちソーシャルラボ」

3

①従業員の自主的な社会貢献活動を促す
 「社会貢献ポイント制度」
 ②従業員のボランティア活動団体を支援金面から支援する「ゆめ・まちええこと応援団」

持続可能な開発目標(SDGs)

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称です。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟国が2030年までに17分野で社会課題の解決を達成することを目標に掲げています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」におけるSDGsに関連する取組例

◆ バイオディーゼル燃料を100%使用したバスの運行

(阪急バス、阪急阪神ハウジングサポート、阪急阪神エムテック、阪急阪神不動産)

食堂、惣菜店舗等のグループ施設のほか、阪急阪神不動産の分譲マンションの入居者や大阪府池田市内から回収した廃食用油を、二酸化炭素を増やさない循環型の燃料であるバイオディーゼル燃料として再利用しているバスを運行。バスの車体も環境をテーマとしたデザインにすることで、沿線のお客様に環境について考えていただくきっかけとしています。



◆ 1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY

(阪神電気鉄道、阪急電鉄)

地域企業と協力して、西梅田・茶屋町でそれぞれ開催。ビルの照明やネオンを消灯し、まちにキャンドルの明かりを灯すイベントを通じて、環境や普段の暮らしを見つめなおすきっかけとなることを目指しています。



◆ 阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊

(阪急阪神ホールディングスグループ各社)

都市交通・ホテル・エンタテインメント等、グループのさまざまな仕事や施設でのチャレンジを体験できる、小学生向けの学習プログラムを毎年夏休みに開催。まちの将来を担う子ども達の健やかな成長を応援します。



◆ 病児支援団体への寄付つき宿泊プランの販売

(阪急阪神ホテルズ)

阪急阪神ホテルズ直営の全ホテルにおいて、寄付つき宿泊プランを販売。利用者1名ごとに1,000円を、闘病・長期入院中の子ども達を支援する市民団体に寄付しています。お客様と共に、病気の子ども達に笑顔を届けます。



◆ 「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」や「阪急阪神 ゆめ・まちソーシャルラボ」による市民団体との協働

(阪急阪神ホールディングス、「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」の助成先市民団体)

グループ従業員の募金を基に、会社が同額を上乗せして、阪急阪神沿線の市民団体を助成しています。「阪急阪神 ゆめ・まちソーシャルラボ」では、阪急西宮ガーデンズ内の「スタジモにしのみや」や駅を中心に、お客様参加型のワークショップや展示等のイベントを開催。地域のみなさまと共に、よりよいまちづくりへの機運を高めています。



当社グループでのSDGsに関連する取組例

◆ 各鉄道会社による省エネ車両の運行

(阪急電鉄、阪神電気鉄道、北大阪急行電鉄、能勢電鉄、北神急行電鉄)

ブレーキ時にモーターの回転力を活かして、発電機として使用(回生ブレーキという)することで30%~50%の電力を架線に戻し、他の加速中の列車の動力として使用する省エネルギータイプの車両を準備しています。



◆ カーボン・ニュートラル・ステーション摂津市駅

(阪急電鉄、阪急阪神ビルマネジメント、阪神園芸)

2010年3月14日に、日本初のCO2排出量ゼロの駅「摂津市駅」を開業しました。同駅では、太陽光パネルやLED照明など各種環境施策を実施することで、通常の駅の半分程度にCO2排出量を削減し、残りのCO2については、森林の間伐や植林などによるカーボン・オフセットにより、実質的にゼロにしています。



◆ 阪急西宮ガーデンズにおける環境施策

(阪急電鉄)

スカイガーデンなどの屋上緑化や壁面緑化を積極的に採用し、ヒートアイランド現象の軽減に努めています。また、太陽光発電パネルや風力発電機の設置、雨水の散水への利用など、自然エネルギーの活用も図っています。このほか、高効率ターボ冷凍機・氷蓄熱システム・ガスコーゼエネレーションシステムの採用、LED照明の採用や自然光を取り入れる設計等により省エネルギー化を図っています。



◆ 阪神甲子園球場の太陽光発電

(阪神電気鉄道)

阪神甲子園球場では、「銀傘」上に太陽光発電設備を設置し、2010年3月から稼働しています。推定年間発電電力量は約193,000kWhで、これは阪神タイガースが甲子園球場で行うナイトゲーム(年間)で使用するナイター照明の電力量に相当し、火力発電に比べて、CO2排出量を年間で約150トン削減することが可能です。



◆ 環境マネジメントシステム ISO14001取得

(阪急電鉄、阪急阪神エクスプレス、アイテック阪急阪神)

ISO14001は、環境マネジメントシステムの国際規格です。当社グループでは、阪急電鉄(正雀工場)、阪急阪神エクスプレス、アイテック阪急阪神で、認証を取得しています。

